

平成 21 年 5 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18330204
 研究課題名（和文） スリランカにおけるインクルーシブ教育を組みこんだ初等中等教育教員養成モデルの構築
 研究課題名（英文） Develop Elementary and Secondary Teacher Training Towards Inclusive Education in Sri Lanka
 研究代表者
 古田 弘子(FURUTA HIROKO)
 熊本大学・教育学部・准教授
 60315273

研究成果の概要：

サラマンカ声明以降、障害児の教育は、彼らが通常の教育の場に参加することを前提とするインクルーシブ教育の枠組みでとらえられる。本研究は、スリランカにおけるインクルーシブ教育に向けた教員養成について明らかにするために、第一に、教科教育の実態等障害児の教育状況を多面的に明らかにし、第二に、ペラデニヤ大学との研究協力により関係者の参加を得て研究会議を開催し、第三に教員養成カレッジ初等教育コースにおける必修科目「特殊教育」について検討した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,300,000	900,000	4,200,000
2007年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
総計	7,600,000	2,190,000	9,790,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：スリランカ ・インクルーシブ教育・教員養成

1. 研究開始当初の背景

発展途上国においては、障害児への教育提供が遅れている。しかしながら、発展途上国において障害児の専門的教育機関を設立することは費用対効果から見て現実的でない。1994年のサラマンカ声明以降、障害児を含む特別な教育的ニーズのある子どもの教育に関する世界的な潮流は、彼らが通常の教育の場に参加することを前提とするインクルーシブ教育を志向する。

インクルーシブ教育による障害児の教育普及をめざすためには学校教育改革とともに

に、教員養成のあり方を変革することが求められる。

発展途上国における障害児への教育提供を促進するための教員養成を検討するには、まずは対象とする国の一般教育や、過去の特殊教育のあり方、さらには教員養成の実態を把握・分析する必要がある。発展途上国の障害児への教育提供は、従来当該国政府の施策実施上の優先順位が低いことが指摘されている。そのため当該国の実状に合わせた教員養成について、国際教育協力を通して検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は前項に記したような問題意識から、調査対象国としてスリランカをとりあげ、まずスリランカにおける障害児をとりまく教育状況について多面的に明らかにする。さらにインクルーシブ教育を組みこんだ初等中等教育教員養成モデルを、国際教育協力を通して検討する。

3. 研究の方法

研究方法は、国内及び海外（スリランカ・タイ）での資料収集、スリランカにおける面談調査、スリランカにおける関係機関での質問紙調査、スリランカにおける研究協力機関との研究会議開催による関係者との討論であった。

本研究の方法上の特徴は、本研究の核となる研究を、スリランカの一高等教育機関、すなわち中央州キャンディ県にある国立ペラデニヤ大学人文学部教育学科との研究協力の形態で行ったことにある。ペラデニヤ大学を選択した理由は、研究代表者が以前より同大教育学科セトウガ学科長と研究協力を行っているによる他、同大が当該国で教員養成・研修を行う数少ない大学の1つであり、さらにその中で唯一「特殊教育」を選択科目として開講していることによる。

海外での実地研究は2006年度計3回実施（延べ8人の研究代表者・分担者参加）、2007年度に2回実施（延べ5人の研究代表者・分担者参加）、2008年度1回実施（研究代表者参加）した。また、2008年度には、スリランカの研究協力者2人が来日し、日本特殊教育学会及び熊本大学にて開催したシンポジウムに参加した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

障害児に関わる教育・福祉の調査研究

学校教育及び就学前教育の実態

これまでその実態解明が不十分である学校教育の中でも、保健管理と初等教育における生活科教育、さらに就学前教育の実態を明らかにした。

学校教育における保健管理と保健教育に関しては、おおむね健康管理は良好であるが、階段等施設面の問題、休憩時間の不足等の子どもの健康に関わる問題があることを明らかにした（斉藤，2007）。

次にスリランカの初等教育における「環境関連活動（生活科）」教師用ガイドブックを収集し、食の教育に関する部分を検討した結果、教授内容として示されている項目は充実していることを明らかにした。しかしながら、その内容が学校見学において観察される一斉指導を中心とする教授法や設備面の条件

の中で実際の教育場面で十分に反映されていないことを指摘した（桑畑・古田・セトウガ，2007；2008）

最後に、スリランカの就学前教育については、これまで公的機関が積極的にかかわることが少なく、統計資料も乏しい現状があり、実施可能な施策策定、保育者養成システムの構築の必要性を指摘した（松本，2007）

障害児への教育提供の現状

ここでは、これまで十分に実態が解明されていない、中央高地のタミル人居住地域の障害児の教育状況、及び福祉セクターによるサービス提供の実態について明らかにした。

スリランカの中でも教育レベルが低い紅茶農園地域の障害児への教育提供について、中央州ハットン教育管内で実態調査を行った。その結果、ごく近年になり公立学校に障害児の学級が設立されてきたこと、また当該地域で使用されるタミル語での教員養成が始まったことを指摘した（古田，2008）

次に、福祉セクターによる障害児への教育サービス提供に関する研究成果は、以下の通りである。中央政府社会事業局による障害児福祉に関する新たな取り組みである、コロンボ郊外のチャイルド・ガイダンス・センターの業務について検討し、学齢の非就学障害児へのサービスが行われていることを指摘した（古田・杉山，2009）。また、北西部州社会事業局が独自に1990年代から取り組む障害児通園施設の役割の変遷について分析し、地域の障害児のニーズに合わせて、聴覚障害単独から複数障害と学齢及び学齢後までの障害者に対応していることを明らかにした。これらの結果から、障害児の公教育への参加のハードルは未だ高く、福祉セクターによる教育提供をインクルーシブ教育への過程におけるオルタナティブなあり方としてとらえる必要があることを指摘した（Furuta，2009）。

以上の研究成果から、スリランカの学校教育、中でも通常学級における教育が障害のある生徒にとって学びやすい環境にないこと、そのために非就学になっている子どもに対して福祉セクターによる対策が見られることを明らかにした。

教員養成に関する研究

インクルーシブ教育について教育開発の立場から分析を行った上で、スリランカの障害児教育教員養成について、またインクルーシブ教育を組みこんだ教員養成についてその実態を明らかにした。

黒田(2007)は、インクルーシブ教育を万人のための教育(EFA)の観点から検討し、教育開発分野の専門家として、インクルーシブ教育についての知見を提示した。すなわち、1994年のサラマンカ声明や近年のUNESCOの

政策文書にみられる、人権・政治的アプローチと教育・機能的アプローチをうまく組み合わせることで、障害児に対する教育機会の拡大という実践に結びつけることができるのではないかと指摘した。

スリランカにおける障害児に関わる教員養成について、Furuta(2006)はその流れを整理した。すなわち、現職教員養成、各州での短期研修からプレサービスの国立教員養成カレッジ(National Colleges of Education)に至る流れを概観し、シンハラ語だけに限られていた教員養成が2005年からタミル語まで拡大したことを指摘した。また、ごく近年特殊教育教員養成に大学が参入しつつあることを指摘し、大学間の研究協力の必要性を指摘した。

一方、古田・アルウィス(2006)は聴覚障害に焦点をあて、スリランカの障害児教育教員養成が2002年から国立教員養成カレッジでの障害種統合コースに転換した後、各障害種別、特に聴覚障害についての専門的な教員養成が弱体化している現状について指摘した(古田・アルウィス, 2006)

次に、インクルーシブ教育を組みこんだ教員養成について述べる。国立教員養成カレッジ訪問により、その初等教育コースでは、2002年より「特殊教育」を必修科目としていることが明らかになった。そこで古田・セートゥンガ(2008)は、国立教育研究所が作成した当該科目の講師用ガイドについて分析し、その内容が英才児に関する項目以外は旧来の障害種別の理解と教室での対応にしぼられ、それ以外の特別な教育的ニーズのある生徒には言及していない点を指摘した。

一方、教員養成カレッジの初等教育課程で必修科目となっている「特殊教育」の実態について、3カレッジ(ハーピティガマ校、ダルガタウン校、スリーパーダ校)において聞き取り調査を行ったところ、講師の専門性不足等の問題点があることが明らかになった。

最後にペラデニヤ大学における大学卒の現職教員対象ディプロマ課程における、選択授業科目としての「特殊教育」の内容について整理・検討した(未公開)。

以上の研究成果から、スリランカでは初等教育教員養成の中で「特殊教育」を必修科目にすることによりインクルーシブ教育の実現に向けた一歩としていることが明らかになった。これは、日本では未だ実施されていないことであり、特別な教育的ニーズのある子どもに関する科目の必修化について、日本の今後の方向性についての示唆が得られたといえる。

国際教育協力による共同研究

共同研究のパートナーであるペラデニヤ大学において、インクルーシブ教育に向けた

教員養成に関する研究会議を2006年度及び2007年度に計2回開催した(表1、表2及び報告書の項目参照)。これらの会議では、前後の打ち合わせのためのミーティングも含め、現地研究協力者(ペラデニヤ大学4人、スリランカ公開大学2人、教育省1人、国立教育研究所1人、ハーピティガマ教員養成カレッジ4人、中央州教育事務所1人、中央州ハットン教育事務所1人、中央州社会事業局2人、キャンディ市公立学校1人)から直接意見を聴取しながら、初等中等教員養成モデルの作成・検討作業を行った。

また、日本にスリランカの共同研究者2人(ペラデニヤ大学人文学部教育学科主任セートゥンガ博士と中央州ハットン教育事務所特殊教育担当主事ドーソン女史)を招き研究討議を行い、初等中等教員養成モデルの作成・検討作業を行った。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

得られた成果の国内外における位置づけとインパクトは以下の2点に整理できる。

第一点として本研究では、インクルーシブ教育及び教員養成のあり方に関する論文を公刊した他、国内でそれについての教育シンポジウム(2007年度及び2008年度日本特殊教育学会自主シンポジウム、2008年度熊本大学で教育シンポジウム)を開催した。これらのシンポジウムでは、スリランカの教育・インクルーシブ教育、教員養成をキーワードに発表・討議を行い、日本国内で十分に知られていない途上国の特別な教育的ニーズのある子どもの教育実態について明らかにしたことの意味は大きい。

第二点として、スリランカでは、これまでインクルーシブ教育に関する研修は教育省や国立教育研究所、各州教育事務所が啓発課題として「上から」行ってきた。そのため「インクルーシブ教育」の名称は障害児教育関係者には知られているが、その内容について共通理解を得る場が乏しく、また実施にあたって関係機関の連携する場が十分になかった。そのような状況の中で、2年にわたって大学、教育省、教員養成カレッジ等関係機関がインクルーシブ教育及びそれをめざす教員養成に関する討議を行う場を提供したことの意味は大きい。またこれらの会議の報告書を公刊し関係機関に配布したことは、まとまった研究資料の乏しいスリランカの実状を鑑みるに、今後の当該分野の発展に向けた一里塚としての役割を果たしたといえる。

(3) 今後の展望

本研究では、研究目的の前半分であるスリランカにおける障害児をとりまく教育状況の多面的な解明については、相当の前進を見

ることができた。さらに、インクルーシブ教育を組みこんだ初等中等教育教員養成について、スリランカ及び日本の研究者等の研究協力を行い、国際教育協力を実践したことにより、スリランカ関係者に一定程度のインパクトを与えたと思われる。しかしながら、初等中等教育教員養成モデルの作成・検討については、現行の初等教育教員養成における取り組みの分析にとどまり、今後の改善に向けての提言を行うには検討が不十分であった。

今後は、教員養成カレッジ初等教育教員養成課程の「特殊教育」の授業科目の実施状況についてさらに調査を行い、現地関係者との研究協力により、実態に即した内容を開発・検討していくという課題が残された。また担当者が博士号取得のために休職していた公開大学では彼らの復帰により、当該分野の発展が見られることが予想されるため、ペラデニヤ大学とともに今後も引き続き研究協力を行うことにより、インクルーシブ教育を組みこんだ初等中等教育教員養成についてさらに検討したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

Furuta, H., Responding to Educational Needs of Rural Children with Disabilities: Care and education in special pre-schools in the North Western Province of Sri Lanka. *The Japanese Journal of Special Education*, 46, 6, 365-379. 2009年3月, 査読有

古田弘子・杉山照子, スリランカの社会福祉部門が果たす「教育」的役割 社会事業局による非就学障害児への支援を中心に. 熊本大学教育実践研究, 26, 61-67. 2009年3月, 査読無

桑畑美沙子・古田弘子・ブラサード セートゥンガ, スリランカにおける食に関する教育 小学校3・4・5年生の「環境関連活動」. 熊本大学教育学部紀要, 57, 121-130. 2008年12月点査読無

古田弘子・ブラサード セートゥンガ, スリランカの教員養成カレッジ(NCoEs)の新科目「特殊教育」について インクルーシブ教育の観点から. 熊本大学教育学部紀要, 57, 167-174. 2008年12月, 査読無

松本なるみ, スリランカにおける就学前教育の現状と課題. 宇都宮短期大学紀要, 5, 53-66. 2007年2月, 査読無

斉藤ふくみ, スリランカの学校における保健管理と保健教育 中央州における学校訪問調査から. 熊本大学教育実践研究, 24, 109-116. 2007年3月, 査読無

黒田一雄, 障害児とEFA インクルーシブ教育の課題と可能性. 広島大学教育開発国際協力研究センター, 国際教育協力論集, 10, 2, 29 ~ 39. 2007年10月, 査読無

古田弘子, スリランカの紅茶農園地域における障害児の教育 社会開発の観点からの考察. 熊本大学教育学部紀要, 56, 51-58. 2007年12月, 査読無

桑畑美沙子・古田弘子・ブラサード セートゥンガ, スリランカにおける食に関する教育 小学校1・2年生の「環境関連活動」. 熊本大学教育学部紀要, 56, 121-130. 2007年12月, 査読無

[学会発表](計6件)

Furuta, H., Issues related to teacher education in the education for children with disabilities in Sri Lanka. (スリランカの障害児教育と教員養成). 韓国江南大学校第一カレッジ・熊本大学教育学部シンポジウム: 発展途上国との教育分野でのパートナーシップの構築 国際コミュニケーション・理解の視点から. pp, 10-14. 2006年11月, 熊本大学

Furuta, H. & K.A.C. Anoma Alwis, Issues related to Teacher Education in the Education for Children with Hearing Impairments in Sri Lanka. (スリランカにおける聴覚障害教育教員養成 現状と課題) Paper presented at the 9th Asia-Pacific Congress on Deafness and 40th Annual Conference of the Japanese Deaf Education Association, Tokyo, Japan 10th October, 2006. 2006年10月, 筑波大学

古田弘子・渡辺実(企画者), 「スリランカの障害児教育 途上国の地域研究から学ぶ」, 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集, 149, 自主シンポジウム31. 兵庫教育大学. 2007年9月23日.

(話題提供者及びタイトル)

- i. 森原美保, 障害児へのADL指導とそこから見えるもの
- ii. 松本なるみ, 障害児教育と幼児教育のクロスオーバー
- iii. 古田弘子, 過渡期の教員養成: インクルーシブ教育への志向
- iv. 森澤允清, 指定討論

古田弘子(企画者), 「スリランカにおけるインクルーシブ教育をめざした教育の動向」, 日本特殊教育学会第46回大会発表論文集, 60, 自主シンポジウム1. 鳥取大学. 2008年9月19日.

- i. 古田弘子, 教員養成におけるインクルーシブ教育への志向
- ii. ドーソン・シャンティ, 紅茶農園地域の教育

実態から iii. 杉山照子, コロンボ周辺地域の障害児療育の 実態から iv. セートウンガ・ブラサード, 指定討論
--

ブラサード セートウンガ・古田弘子(企画者), 1st Sri Lanka Japan Research Project on Teacher Training towards Inclusive Education, University of Peradeniya. 2006, 9, 8. (第一回スリランカ・日本インクルーシブ教育に向けた教員養成研究会議), ペラデニヤ大学. 2006年9月8日. (表1)

表1. 第1回スリランカ・日本インクルーシブ教育に向けた教員養成研究会議

2006年9月8日開催	
発表者	主題
Kuroda, K.	EFA and Inclusive Education
Sethunga, P. & Withanage, B.	Inclusive Approach and a National Survey on Inclusive Education in Sri Lanka.
Furuta, H.	Research Review on Special Education in Sri Lanka
Palpola, S.	Present Situation and Problems of Pre Service Teacher Training on Special Education
Weerakoon, W.M.P.	Present Situation on Special Education in Sri Lanka
Jayawardena, D.M.	Present Situation on Special Education in Central Province

ブラサード セートウンガ・古田弘子(企画者) 2nd Sri Lanka Japan Research Project on Teacher Training towards Inclusive Education, University of Peradeniya. 2007, 8, 31, (第2回スリランカ・日本インクルーシブ教育に向けた教員養成研究会議), ペラデニヤ大学. 2007年8月31日. (表2)

表2. 第2回スリランカ・日本インクルーシブ教育に向けた教員養成研究会議

2007年8月31日開催	
発表者	主題
Sethunga, P. & Withanage, B.	Inclusive Approach for EFA and a National Survey on Inclusive Education in Sri Lanka.
Rathnayake, W. & Reka, V. S.	Implementation of Awareness Programme for Teachers on Inclusive Education in Central Province
Dawson, S.	Implementation of Teacher Training Programmes of Inclusive education in Hatton Zone
Furuta, H.	Introducing Inclusive Education in Teacher Training: a pilot study in "Teaching

	General Studies”
Watanabe, M.	Curriculum Development for Children with Special Needs at Primary Level
Sethunga, P.	Introducing Special Education as a Subject for Postgraduate Teacher Training

〔その他：報告書〕

Sethunga Prasad, Teacher Training Towards Inclusive Education: Report of the 1st and 2nd Sri Lanka Japan Research Project on Teacher Training towards Inclusive Education. University of Peradeniya, Peradeniya, Sri Lanka., 2009年1月.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古田 弘子(FURUTA HIROKO)

熊本大学・教育学部・准教授

研究者番号: 60315273

(2) 研究分担者

桑畑 美沙子(KUWAHATA MISAKO)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号: 80040070

(平成18年度、平成19年度、平成20年度)

(3) 連携研究者

黒田 一雄(KURODA KAZUO)

早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授

研究者番号: 70294600

(平成18年度研究分担者)

斉藤 ふくみ(SAITO FUKUMI)

茨城大学・教育学部・准教授

(平成18年度・平成19年度所属、熊本大学・教育学部・准教授)

研究者番号: 30336193

(平成18年度研究分担者)

松本 なるみ(MATSUMOTO NARUMI)

宇都宮短期大学・人間福祉学科・講師

研究者番号: 70442027

(平成18年度、平成19年度研究分担者)

渡辺 実(WATANBE MINORU)

花園大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号: 10367980

(平成18年度、平成19年度研究分担者)

杉山 照子(SUGIYAMA TERUKO)

中部学院大学・短期大学部・非常勤講師

研究者番号: 00450031

(平成19年度研究分担者)

中園 優子 (NAKAZONO YUKO)
熊本大学・教育学部・非常勤講師
研究者番号：20261716
(平成18年度研究分担者)

中田 英雄
筑波大学・教育開発国際協力研究センター・
教授
研究者番号：80133023
(平成19年度研究分担者)

(4)研究協力者

Dr. Prasad Sethunga (ペラデニヤ大学人文学部教育学科)

Mr. W.M.K. Weerakoon & Mr. W.V. Singhanata (国立教育研究所インクルーシブ教育部)

Mrs. Shanty Dawson (国立教育研究所インクルーシブ教育部/中央州ハットン教育事務所)

Mr. T.D.T.H. Dhanapala & Mrs. Anoma Alwis (スリランカ公開大学)

Mr. P.N. Lakshman & Ms. D.K.D. Rathnawathi (教育省ノンフォーマル・特殊教育部)

Ms. Nandanie de Silva (元国立教育研究所インクルーシブ教育部)

森澤 允清 (高知女子大学大学院健康科学研究科)

森原 美保 (神奈川県立金沢養護学校)